

いずみのひろば

2017年8月号
日本基督教団堺教会
No. 465 教会学校

「初めに、神は天地を創造された。」

創世記1章1節

これは、聖書に書かれている最初のことばです。世界で一番読まれている聖書の箇所だと思います。

そして、この聖書のことばで、キリスト教を信じようになつた人がいます。「新島襄」という名前の今の同志社大学を創つた人です。今から百五十年ほど前の事でした。彼（新島襄）が当時18歳のときです。

聖書の小冊子を友人の部屋で見つけ、借りて読みました。その時、この言葉に驚きました。彼はその本を読みながら、次のように自分に問いかけました。「私を創つたのは誰ですか。両親ですか。それではその両親を創つたのは誰ですか。神さまです。私の机を作つたのは誰ですか。大工さんですか。いや、神さまは地上に木を育てられた。神さまは大工さんに机を作らせましたが、その机は現実にはどこかの木からできたものです。そうであるなら私は神さまに感謝し、神さまを信じ、神さまに対して正直にならなくてはなりません。」



このように考えたそうです。そして神さまを信じるようになったと言われています。

『初めに、神は天地を創造された。』

この短い言葉のなかに実に多くの事が込められています。

1. 世界のはじまりについて（すべて物や出来事にはじまりと終わりがあがる）

2. 世界は偶然に出来たのではなく、神さまの計画、考えがあつたということ。

3. 神さまはどういうお方であるか。神さまは造り主であるということ。わたしたちの周りには、昔から太陽や山、海、岩といったものを神さまとして祭っていることがあります。でもそれらはみな造られたものであつて本当の神さまではないということ。すなわち、この世界は、わたしたちも皆、造り主であられる神さまのみ手の中にあるということです。神さまの愛の中にあるということ。だからわたしたちは安心して生きていって良いのです。お祈りいたしましう。

（お話 林部 弘先生）